



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

失敗や挫折も 無駄ではない

悪をも転じて 乗り越える人生となる

令和七年の新年、明けましておめでとございます。この一年もどうぞ本紙を愛読いただきますようお願い申し上げます。

昨年は正月早々に能登半島地震が発生し、翌二日には、羽田空港で飛行機火災が発生し、災害、事件も相次ぎました。今年こそ、平和で穏やかな一年でありますようにと願いますが、この世は諸行無常、何が起きるか分からないのです。

大晦日には、除夜の鐘を皆さんついていただき、有難うございます。一応、除夜の鐘は百八つ衝くことになっていますが、後から後から鐘撞きに来られる人もあるので、百八つを衝き終えても、自然に超過してしまいがちです。それでも我らが煩惱は無限ですからやむを得ないのではないかと、思う外ございません。

むしろ、仏さまはこんな悪業煩惱の我々のことを全てお見通しで、こんな煩惱具足のわれらをば、救われなければじつとしておれぬと立ち上がって本願念仏の救いを成就されたのです。み



教えに遇い、煩惱を断ち切ることなくして、必ず往生成仏の道を歩ませて頂く人生は、悪をも転じて乗り越える道を歩ませて頂く「無碍の一道」です。

庫裏の仏間に続く十畳の間に、「転悪成善」という亡父の揮毫になる額がかけてられています。これは御本願の救いに遇い、信心獲得の上には、本願力のお働きによって迷いの世界を超えて、この世の人生の上に現生十種の御利益を戴くと仰せの一つの御利益です。

私たちは失敗や挫折を繰り返しくじけてしまいそうになります。しかし、その失敗、挫折は、阿弥陀さまの救いの働きにより、逆境で湧いてくる煩惱そのまま計り知れない功德へと転ぜられるのです。

難病の苦悩の中に「歎異抄」の教えに遇い得た方の年頭の句があります。

「生かねるいのち尊しけさの春」
(中村久子)

背負った我が子を道連れに心中しようとした時、赤ん坊の泣き声に親子心中を思い止まったと言われるお方です。苦悩を転じて救いに目覚めさせられる

☆行事ご案内☆

除夜の鐘 12月31日夜11時45分より

誰でも撞けます。家族やお友達と来て下さい

元旦会:1月1日午前9時より、正信偈、住職法話

新年のスタートは家族揃って阿弥陀様にご挨拶

お朝事 1月13日・14日・15日・16日の朝7時

連続4日間のプチ修行、正信偈、法話、茶話会、

夕方5時の鐘撞 年中無休、誰でもOK、ご褒美菓子有

一線会テレホン法話Tel059-354-1454へお電話を三重組5か寺が週替わりで3分法話、40年継続

善正寺ホームページ:QRコードからご覧下さい

過去の寺報閲覧可能、毎日更新ブログ『住職と

坊守のつれづれ日記』大好評、お悩み相談OK

新法縁廟境内に『俱会一処』の共同墓、記名碑有、完成一年、いつでもお参り可、棚に骨壺、シェア納骨、

新納骨堂後継者の無い方、お墓でお悩みの方ご相談下さい。個別納骨方式、年会費無、複数人納骨可。

法事場所でお困りの方本堂使用可、寺にご相談下さい



善正寺
ホームページ



住職と坊守の
つれづれ日記



とは、聖人御自身も体感された境地であり、現生に正しく浄土往生が定まった「正定聚不退転」の念仏者ならではの風光だろうかがわれます。
この一年、苦しみも悲しみも乗り越えて、「生かされてきてよかった」と言える日々を送りましょう。

写真アラカルト



坊守スケッチ

やどりのない時代

一年が瞬く間に過ぎ去り、また新しい年を迎えます。あれほど自粛生活を強いられたコロナ禍も忘れ去って、観光地は開放感に包まれ賑わっています。それに引き換え、お寺の法座は参詣者の高齢化で寂しくなる一方。何か良い手立ては無いものかと思案しています。今やスマホは一人一台の時代です。いくら情報網が発達して瞬時に他人と意思疎通ができる時代になったとは言え、それが真実であるかウソの情報で有るか見分けるのは困難です。

作爲的に作り上げられたSNS情報が民衆の心を誘導する不透明な時代に突入しました。ウソのネット情報で傷つけられた子供は不登校になり、職場のハラメントに遭った大人はウツを発症して引き籠るケースがあります。辛い思いをしている人に共通するところは「相談相手がいない」という事です。先日夜遅く、見知らぬ男性(40代)から悩み相談の電話を受けました。彼は善正寺のホームページを見て県外から電話をかけて来ました。開口一番「相談料は無料ですよ」と念を押してから悩みを語り始めました。「職場の配置転換からうつ病を発症して精神科に通院しているが、はかばかしく無い。妻子とは数年前に別れ一人暮らし。親とも疎遠。このまま死んだ



方がマシだろうか？」と訴えました。夜遅い電話でしたので、後日再度電話頂く約束をして切りました。家族がいないのは、自由で気楽な反面、投げやりな気持ちになります。再度電話がかかった時に、「あなたは人生の半分も生きていない。このままで終わるのは勿体ない。仕事以外に何か楽しみはない？」と尋ねると、「中学時代サッカーをしていた頃が一番楽しかった」と返答。「じゃあ今からでも少しずつ体を動かして気分転換したらどう？」とアドバイスしました。

自分の一番好きなことをする時間を、意識的に確保して、自分の生活ペースを作り、情緒を安定させることが、「よりのない時代」を生き切る賢明な方法です。最後に「人は皆独りであるけれども、計り知れない縁によって生かされているのだよ」と伝えました。

お悔み申し上げます

★服部ひな子様(91)12月4日往生
名古屋市長古屋市 合掌
★佐藤和美様(85)12月8日往生 合掌
カンパありがとうございました
松岡康様、渡辺定美様、磐城玉野様、澤田美智江様、富田和代様、感謝

若坊守の日記No.120

十一月のある朝、「ごみ捨てを終え自宅へ歩いていると、「近所の女性から声をかけられました。「ちょっと見てもらいたい物があるの。」と言われ、「自宅の和室に上げてもらうと、一幅の掛け軸がありました。女性のお母様が、知り合いの方に頂いた掛け軸だそう、漢字と仮名混じりで四行の文がしたためてあります。「それを解読してほしい」という依頼でした。普段、漢字ばかり書いている私には一見では分からないので、写真を撮って持ち帰りました。

分厚い辞典を久しぶりに開き、一字ずつ照らし合わせていきます。どうやら変体仮名が多用されているようで、辞典と写真を睨めっこです。なんとか全て読めたものの、意味が通らないのできつとどこか間違えているのではよいか?でもこれ以上は私には難しく、そこまででお返事しました。

完全に解読できず申し訳ないので、謎解きをしているような気分でした。私が作品を鑑賞する時、つい意味よりも余白や筆遣いに目が行きます。誰かのメッセージや想いを受け取るには今後も努力を重ねて、より一層精進したいと気付かせて頂きました。



俳壇

厚着して縦列並ぶバス停前 釋妙水
釣るし柿陽と凧を友として
ぐうたらも忙しい人も師走かな
一瞬の夕照惜しむ秋の湖 釋染邦
へばり付く草の実つけつ野の散歩
荒れ庭に夜目にも浮かぶ石蓀の花
焼き芋を包みし紙は朝刊か 釋住安
遠方より駆けつける孫秋祭り
冬瓜の餡かけすすりほかほかに
門松や竹の切り口笑い顔 釋妙梅
小鳥来て正客に据え釜開き
シクラメンのあかい灯点る北玄関
如来にも紅葉せる木を供へたり
釋妙玉

獅子舞の鳴り止み屋飯の支度 釋秀龍
終礼のチャイムは太し初時雨
カサカサと落葉ふるえる朝の町
寒空や月と火の星寄り添いて 釋清風
お歳暮の百味の飲食ありがたや
凧に枯れ葉音立て舞い散れり

★ 編集子より ★

「善正寺だより」373号をお届けします。◇明けておめでとうございませう。本年も善正寺一家を上げて編集、執筆の本紙を「愛読宜しくお願ひ申し上げます。◇近年周辺でも随分、空き家が増えた。墓地でも墓じまいが目につく。何かと淋しい時代だなあ、と感じる。◇不穏な世界情勢、天災地変も心配だが、縁あって出会う人間同士が寄り添い、支え合わなければこの世は成り立たない。互いに念仏申しつつご縁を大切に生き抜きましょう。合掌。

明けましておめでとうございませす。本年もよろしくお願申
し上げます。毎月発行する「善正寺だより」は第313号になり、今
年で32年目を迎えます。毎日更新するブログ「住職と坊守の
つれづれ日記」は17年目に突入して読訪問者数は45万
6千人です。これも偏に皆様のご協力のおかげです。
いつまで継続できるか分かりませんが、命の限り精進す
るつもりです。スマホで寺報のQRコードから簡単に見ら
れますのでご利用下さい。ところで皆様は年賀状を今年何
枚受け取られましたか？年賀状の発行部数は近年大幅
に減少して、最盛期（2004^年）の44億6千万枚をピークに今
年は10億7千万枚と4分の1に減少しました。郵便料
金が大幅に値上がりしたことの影響を受けています。その
反面スマホは一人一台の時代でLINEで簡単に用件を
伝える人が増えました。便利になった反面、何か味気なく
寂しい気がします。家族、地域、職場、友人と対面で
交流する機会が少なくなり、画面越しの通信で
中にはニセ情報で詐欺に遭う事件も発生してい
ます。こんな時代にお寺で聴聞するのは時代遅れ
かもしれません。が法友と温かい交流の中で、仏様のお
慈悲に包まれている「安心感」と、仏様から生きると
「智慧」も授けて頂くのが、お寺の法座の魅力ではないか
と思います。年末の除夜の鐘から正月の「元旦会」、御
正忌報恩講のお朝事（お粥）と行事が続きます。
お誘い合せてお参り下さいませ。合掌
令和7年1月 善正寺坊守様